

きら読

DAYORI

No.175 令和8年7月

もりもり読書だより

電子版はこちら →



読書ボランティア向け講座



手遊びなどを
教えていただき
ました！



交流会



講座後には思い出の絵本について話したり、読書ボランティアとして活動されている方は、読み聞かせの悩みなどを話し合ったり交流会を行いました。講師の下山さんにも参加していただきました。

ふれあい文庫の本の装備



6月25日(木)にふれあいブックサポーターに集まっていた、本の装備を行いました。ブッカーをかける作業は本を長く、きれいに使い続けるためのとても大切な作業です。今回装備をした本は、ふれあい文庫に並びます！

ふれあい文庫とは...



貸し出し手続きをせずに自由に本が借りられる小さな読書スポットです。市内32カ所に設置しております。ぜひ利用してみてください！

丹後小学校 早稲田中学校生徒の 「本の読みきかせ」



卒業のときにお渡ししている出会ったおはなしのリストです！

中学生が小学生に贈る 「本の読みきかせ」

6月17日(水)、三郷市立丹後小学校で、早稲田中学校の生徒16名による、「本の読みきかせ」が行われました。こども司書の中学生も参加し、児童に素敵な本との出会いを届けました。この活動の学校と地域をつなぐ「学校応援推進員」。皆さんの協力で実現しました。中学生は「伝える喜び」を学び、小学生は「読書へのワクワク」を育む素敵な交流となりました。こうした世代を超えた読書を通じたふれあいは、豊かな心を育て、地域全体で子どもたちを見守り、教育力を高めていくための大切な「宝物」のような場となっています。

瑞木小学校 文部科学大臣表彰

瑞木っ子の笑顔と絆、 文部科学大臣表彰へ

三郷市立瑞木小学校を訪ねると、学校と地域が手を取り合い、一冊の絵本を読み進めるように丁寧に築き上げてきた「心の教育」の姿が見えてきました。先生自らが季節の装飾を手作りして彩っています。今回の受賞は、地域全体で子供たちを包み込んできた瑞木小学校の温かな絆が、素晴らしい成果として「実を結んだ」物語の1ページと言えるでしょう。



校長先生が天井のかざりを作っているそうです！



編集・発行：三郷市教育委員会生涯学習部
日本一の読書のまち推進課 ☎048(930)7818
〒341-8501 三郷市花和田648番地1 FAX048(953)1160



金曜日は記念すべき日になった。」

みなさんは、ファンタジーや魔法と聞いてどんなことを思い浮かべますか。空飛ぶほうきや、火を吐くドラゴンを思いつく人が多いと思います。この本には、このような不思議なものがたくさん出てきます。

この本は、主人公のハリー・ポッターという少年が、ホグワーツ魔法学校という魔法を学ぶ学校へ入り、親友のロンとハーマイオニ―と一緒にトロールを倒したり、禁じられた森に入ってしまったり、ハラハラしながらも友情や勇気で数々の危機を乗り越える物語です。

『ハリー・ポッターと賢者の石』

J. K. ローリング/作 松岡佑子/訳 静山社ペガサス文庫（新装版）

私がこの本の中で心に残っているのが、ファンタジー系の要素だけではなく、主人公たちの何気ない日常の中での友情や、敵に立ち向かう不屈の精神力と勇気が見られるところなんです。特に「ハリーとロンにとって金曜日は記念すべき日になった」「みんなクリスマス休暇が待ち遠しかった」などの言葉でその情景が思い浮かび、私が普段学校で話しているようなことを話している、場所も時代も言語も違うのに同じことを話していることに親近感と何とも言えない面白さがこみ上げてきました。

また、地下牢や大広間など、私たちが住んでいる家とは全く違う

友情と勇気

場所や、ライスプディングなど聞いたこともない食べ物が出てきて、ハリーの世界に行ってみたくなりました。

この本は、ファンタジー要素だけではなく、ハリー達の等身大の姿が書かれていて、友情や成長がみられる作品です。みなさんもぜひ、手に取ってみてください。



三郷市こども司書 14期生

石川 直歩さん

「むりって、いやな言葉だよね」私は、この本を読んでこの言葉が一番心に残りました。私も、同じことを思った経験があったからです。

この本は、主人公の少年「かなた」がルリと出会い、ルリの記憶を取り戻す手伝いをしていく物語です。かなたは六年生で、サッカーが大好きな男の子。でも、セレクションで不合格になってしまい、サッカーをやめてしまいました。どうせ家にいてもじやまなのだろうと思い、ケンゴさんを頼って奄美大島にやってきました。そこで出会ったのが、幽霊の少女でした。名前も分らない少女に名前を付け、記憶をさがす手伝いを始めます。いろいろなところに行

『夜光貝のひかり』

遠藤由実子/作 げみ/装画 文研出版

き、いろいろな人の話を聞くうちに、かなたは自分の中で何かが変わっていくのを感じていました。

私が心に残った場面は、かなたが東京に帰るときに「サッカーを続けます。」といった場面です。一度あきらめて奄美に来たはずなのに、もう一回「続けます」というのは簡単なことではありません。ここでかなたがこの言葉を言えたのは、奄美でルリが言った「むりって、いやな言葉だよね」という言葉や、奄美の人たちの支えとかがあって、自分自身が変わったからだと思います。

私にも似たような経験があります。算数などの問題で分からないことがあると、すぐに考えるのを

あきらめない心

やめてしまっていました。でも、一緒に考えてくれる友達がいたので、最後まで頑張って考えることができるようになりました。諦めかけたり、すでに諦めてしまっていたりしても、他の人の言葉や支えがあれば、自分を変えることができることを学びました。皆さんもこの本を読み、主人公かなたの気持ちの変化を感じてください。



三郷市こども司書 14期生

下田 菜月さん